

8. 各部・学年・教科の方針・努力目標

1. 教務部

(1) 基本方針

教育方針及び本年度の努力目標を達成するため、各部、学年会、各教科との連絡調整を密にして、円滑に教育活動が行われるように全教職員の共通理解と協力体制の確立をめざして、効率的な校務の運営に努める。

(2) 努力目標

- ① 年間の授業日数及び授業時間数の確保
- ② 学校行事の効率的な位置づけ及び精選
- ③ 各部、学年会、各教科との密接な連携と協力体制の確立
- ④ 重要諸表簿及び事務文書の整理・保管
- ⑤ 内規の整備
- ⑥ 保護者、地域社会およびPTAとの連携と協力体制の確立
- ⑦ 教育課程の研究
- ⑧ 「総合的な学習の時間」の研究と推進
- ⑨ メーリングサービスの利用推進
- ⑩ 校内LANの整備と活用
- ⑪ 職員研修の充実
- ⑫ 校務支援システムの運用およびサポートの充実
- ⑬ 定期考査の計画的な実施

2. 生徒指導部

(1) 基本方針

- ① 個々の生徒理解に努め、カウンセリング・マインドで活動を進めていく。さらに、生徒と教師間の信頼関係を確立し、教師に対して生徒が心の扉を開き、自己実現に向けるよう指導にあたる。
- ② 全生徒を生徒会活動に参加させることにより、民主社会を担っていく人間として自らの権利を認識し、義務を遂行できる生徒を育成する。

(2) 努力目標

- ① 基本的な生活習慣の確立（勤怠指導）
- ② 明るく清潔な身だしなみの指導
- ③ 交通安全指導の徹底
- ④ アルバイトに関する指導
- ⑤ 問題行動の未然防止（飲酒・喫煙、深夜徘徊等）
- ⑥ 生徒会役員の資質の向上（リーダーとしての意識の高揚）
- ⑦ HR役員及び各専門委員会活動の活発化
- ⑧ 部活動の活性化

3. 進路指導部

(1) 目 標

- ・ 生徒一人ひとりが自己の能力と個性に応じた進路を選べるように、進路指導の充実を図る。
- ・ 進路目標を設定し、進路実現に向けて努力する気風を作る。

(2) 基本方針

生徒が自ら進路について考える、主体的な態度を育てる。

- ① 生徒の自己理解を支援し、将来の生き方・在り方を考えさせる。
- ② 担任、学年会をはじめとして、校内の全組織、全職員と連携をとり、全校的な協力体制の下で系統的・計画的・継続的な進路指導を行う。

(3) 努力目標

- ① 生徒が能力と個性に応じた進路が選べるよう、個別指導を強化する
- ② 進路選択の早期決定を図る。
- ③ 各種テストや調査等を実施し、生徒の自己理解を促進する。
- ④ 諸講座を計画・実施し、生徒の学力向上に努める。
- ⑤ 進路に関する資料を収集・整理し、生徒・職員が効果的に活用できるように努める。
- ⑥ 各学年会との連携の在り方を工夫する。
- ⑦ 特進クラスの活性化を図る。

(4) 各学年における努力目標

- 1 学年・・・自己を見つめ、いろいろな職業についての視野を広げさせる。
- 2 学年・・・自らの興味・適性・能力を知り、希望進路を明確にさせる。
- 3 学年・・・進路情報の収集と活用を徹底させ、目標進路の実現に向けた支援を行う。

4. 環境・安全部

☆施設環境衛生

(1) 努力目標

- ① 清掃の徹底や校内美化に努め、気持ちの良い学習環境づくりをする。
- ② 清掃活動を通して自主性と勤労意欲を高める。

(2) 具体的取り組み

- ① 日常の清掃の徹底と点検・指導(全職員で清掃指導にあたる)
- ② 清掃分担区の明確化
- ③ 美化委員会の自発的活動の促進
- ④ 清掃用具の点検・整備
- ⑤ 教室内外の整備
- ⑥ 全体清掃の設定と実施
- ⑦ 校内緑化の推進
- ⑧ セミナーハウスの管理
- ⑨ 防災計画の運用

☆保健

(1) 努力目標

- ① 生徒及び教職員の健康の保持増進を図る。
- ② 健康(健全)な生活を送る態度を育成する。
- ③ 学級担任、教育相談係、養護教諭、保護者との連携を密にする。
- ④ 健康、安全に留意し自発的、自主的な学習態度を培う。

(2) 具体的な取り組み

- ① 健康診断の円滑な実施と事後指導の徹底
- ② 保健資料の収集と提供
- ③ 保健委員会の活性化
- ④ 学習環境の点検(薬剤師との連携)
- ⑤ エイズ教育・薬物乱用防止教育に関する資料収集、提供

☆教育相談

(1) 努力目標

- ① 教育相談(カウンセリング)活動を通して生徒のより深い理解と生徒自身の自己実現を支援する。
- ② 保護者、ホームルーム担任・養護教諭・専門機関等と連携し、生徒の理解と支援を実現し、自己実現を促す。

(2) 具体的な取り組み

- ① 教育相談体制の組織的確立を図る。
- ② 生徒・保護者の相談しやすい教育相談体制の確立(教育相談室の気軽な利用)
- ③ 教育相談室の整備・資料収集・保管・データの活用
- ④ ホームルーム担任・教科担任・学年会・各部の係・保護者・専門機関との連携強化

5. 図書・視聴覚部

(1) 活動目標

図書館、視聴覚機器の利用の促進を図る

(2) 努力目標

- ① 各教科・HRとの連携を密にし、施設および資料の利用を促進する。
- ② 読書指導、図書館利用指導の実施。返本指導の徹底。
- ③ 図書委員会の活動を活発にする。
- ④ 図書および図書以外の資料の整理・充実
- ⑤ 掲示活動の充実
- ⑥ 視聴覚室の利用促進
- ⑦ 視聴覚機器の整理充実
- ⑧ その他(芸術鑑賞の世話、行事等の記録)

6. 事務部

本年度の努力目標

(1) 活動目標

全職員と連携・協力し、生徒の学習環境の向上に努める。

(2) 努力目標

- ① 教育環境の充実を図る。
- ② 安全な施設設備の管理に努める。
- ③ 適正で効率的な事務遂行に努める。
- ④ 合規的、効果的な予算執行に努める。

7. 学年会

本年度の努力目標

1学年会

- ① 基本的な生活習慣を確立する。(勤怠指導、服装指導、清掃指導の徹底)
- ② 学習規律を確立する。
- ③ 進路指導部、生徒指導部と連携し、学年集会を計画的に実施する。
- ④ 情報交換会の充実を図る。

2学年会

- ① 基本的な生活習慣を確立する。(挨拶、勤怠指導、清掃指導、服装容疑指導の徹底)
- ② 意欲的に取り組む学習態度を育成する。(授業中のマナーの確立)
- ③ 進路指導部と連携し、生徒の進路に関する情報収集の徹底と進路目標の早期決定を図る。
- ④ クラス間の連携を密にし、連帯感を深める。

3学年会

- ① 基本的な生活習慣を確立させる。(遅刻、無届欠課、無届欠席、清掃・身なり指導の徹底)
- ② 進路指導部と連携し、生徒の進路に関する情報収集の徹底と進路目標の早期決定を図り、生徒一人一人の希望する進路が実現できるよう進路指導の充実を図る。
- ③ 生徒の自主的活動を促し、ホームルームの充実と効果的な運営をめざす。
- ④ 学年会の充実を図る。

8. 教科

本年度の努力目標

国語

- ① 基礎的・基本的事項の定着及び学習意欲の向上を図る。
- ② 目的や場に応じて論理的に話したり、書いたりする表現力を育成する。
- ③ 学校図書館と連携して読書力を伸ばし、読書習慣を養うための活動を推進する。

地歴・公民

- ① 分かりやすい授業の工夫、興味・関心を引き起こす授業の工夫。
- ② 時事問題等を教材として活用する。
- ③ 視聴覚機器・ICTの積極的利用
- ④ 授業に地域(郷土)の教材を取り入れる。

数学

- ① 基礎基本をの確立
- ② わかりやすい授業の研究
- ③ 習熟度別授業の工夫
- ④ 教科内研修の充実
- ⑤ 数検の推進
- ⑥ 計算力コンテストの推進

理科

- ① わかりやすい授業の工夫
- ② 基礎基本の徹底的理解と授業内容の精選
- ③ 実験・実習観察を通して理解力を高める工夫
- ④ 教材開発に取り組む。
- ⑤ 視聴覚機器・ICTの積極的利用

保健体育

- ① 健康・安全や運動についての理解を深め、健康の保持・増進に努める。
- ② 学習規律の確保（時間厳守・服装の徹底）
- ③ 目標（めあて）をしっかりと持つ。
- ④ 自分の力を最大限に発揮する。（持久力の養成）
- ⑤ 自分の能力・適正を把握し、興味・関心に合わせて計画を立てる。（思考・判断）
- ⑥ 活動結果の評価・反省・見直し

芸術

☆音楽

- ① 生徒一人ひとりが生涯にわたり音楽を愛好していく態度を育てる。
- ② 様々な教材教具を活用し、生徒の興味・関心および意欲や個性の伸長を図る。
- ③ 音楽の学習を通して、世界の音楽や郷土音楽の体験・学習に努める。

☆美術

- ① 美的体験を豊かにし、美的感性、表現技能など個々の個性を伸ばすよう努める。
- ② 興味・関心を喚起する教材を精選し、創造・表現制作の喜びを味わわせるように努める。
- ③ 鑑賞の領域で素晴らしい作品にふれさせ、美術文化についての理解を深め、それらを尊重する心情や態度を育てるように努める。

☆書道

- ① 豊かな感性と、伝統文化である書を愛好する心情を養う。
- ② 美しく文字が書けるように努める。
- ③ 自己の心情や精神を絵や文字によって表現する。

英語

- ① 基礎基本の充実
- ② ALTの有効活用
- ③ コミュニケーション能力の育成と国際理解教育の推進
- ④ 英語検定試験の受験の推進

家庭

- ① 学習を通して生活を見つめさせる。
- ② 実習等を通して責任感と協力心を養い、人との関わりや、完成の喜びを体験させる。
- ③ 生徒の実態や地域に合った教材を工夫する。

情報

- ① コンピュータやネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得させる。
- ② 情報を主体的に活用しようとする態度を育てる。
- ③ 生徒の実態に合わせた教材の作成と授業形態の実践に努める。